

東名高速道路大和地区における 交通円滑化走行支援サービス 社会実験



高度情報化研究センター

高度道路交通システム研究室 室長 畠中 秀人 主任研究官 坂井 康一 研究官 若月 健

(キーワード) サグ、渋滞緩和、路車協調、AHS

1. 交通円滑化走行支援サービスの概要とこれまでの取り組みについて

国土交通省では、路車協調により多様なITSサービスを統合的に実現させる「スマートウェイ」構想に基づき、AHS（走行支援道路システム）を活用した交通円滑化走行支援サービスの研究開発に取り組んでいる。その一環として、都市間高速道路で渋滞が最も多発する箇所であるサグ部（勾配が下り坂から上り坂にゆるやかに変化する場所）において、“車線利用率適正化サービス”の実用化に向けた研究を進めてきた。

同サービスは、渋滞緩和のため、ボトルネック地点において、追越車線に偏った交通流の車線利用率適正化を目指し、ドライバーに対して情報提供するサービスである（図1）。最初に、サグ底部の上流において「車線変更依頼メッセージ」により追越車線から走行車線に車線変更を促し、2番目に、サグ底部付近で「車線維持依頼メッセージ」により走行車線を維持してもらい、最後に、「サービス終了メッセージ」によりサービス区間の終了を知らせるサービスである。また、ITS車載器他に有効と考えられるLED表示板による情報提供についても検証することとした。

立案したサービスを公道で実施するに先立ち、昨年度までに、ドライビングシミュレータを用いた情報提供実験を行った。その結果、情報提供により走行車線への車線変更行動が見られるなど、その効果が確認できた。なお、情報提供したことによる被験者の危険な行動はみられなかった。

2. 東名高速道路大和地区での社会実験について

これまでの検討を踏まえ、サービスの実用化に

向け、2009年12月より東名高速道路大和サグ部において情報提供を試行する社会実験を行っている。

社会実験では、一般から募集した特定被験者に対し、LED表示板及びITS車載器を用いて情報提供を実施し、サービスの受容性等の検証を行っている。また、LED表示板による情報提供は全通過車両に情報提供されるため、そこを通過した一般ドライバーへのアンケート調査やサービス効果の評価等も実施している。

本社会実験による、ドライバーのサービス受容性の検証、サービス効果の評価、サービスの今後の展望等については社会実験終了後にとりまとめる予定である。

	①車線変更依頼	②車線維持依頼	③お礼 (サービス終了)
LED表示板	渋滞防止 走行車線へ	渋滞防止 走行車線キープ	ご協力 ありがとう ございました
画像			
ITS車載器 音声	「この先、追い越し車線が混雑しています。渋滞防止のため、走行車線を走行願います。」	「渋滞防止のため、走行車線をなるべくキープ願います。」	「渋滞防止にご協力ありがとうございました。」

図1 情報提供内容

【参考文献】

● 関連するHPのURL

AHS/実現を目指すサービス/サグ・トンネル部などの渋滞削減を目指す

http://www.nilim.go.jp/japanese/its/0frame/under/02ahs/index_02_05.htm